

# 今想う



## 入来院 重朝

妻、貞子が亡くなってもう何年になるか、まだ十年は経っていないだろうと、朝夕、般若心経を唱えながら思った。長女の久子が一緒にいるので日常は全く平穩無事である。私が健康で日常何とか自立出来ていると云っても、三度三度のメシは娘が用意してくれているからである。

週に三度月水金は医院併設いうことなしの「のぞみ園」という温泉付きの老人施設に行っている。毎朝夕車で送迎してくれるのでありがたい。大体女性が主で、私が行っている日は男性が三人で、あとは女性のおばあさ

んだ。と云っても全員で十人くらいだ。マッサージ師の男性が専任していて本当にありがたい。老人天国である。

目下世界は大きな戦争が絶えて無いので、ほとんど天国に近いのではないか。世界史上マレに見る状態である。もっともエキ病が発生して適当に人類がマビかれるのは天意であろう。

日常テレビのおかげで世界中のことは大体のところワカッテイル。真実はホントのところどうなのかは又別である。それにしてもテレビとは全く魔法の箱である。居ながらにして世界中のことは見せてくれる万能しもべのようだ。これがたつた百年たらずの間に具現したのだ。このことは当然のようにしてみんな生活しているが、例えば電気が止まったら、つまり停電したらほとんどが一時間もたないではないか、文明人はつまりホント

はカヨワイのではないか。現代の魔法の箱コンピュータにしこまれていく命令によって万人が生きているのではないか。生きていくという自覚があるうちはいいのだ。しあわせだ。

(炉ばたセイ談庵主)



第6回入来薪能『忠度』(2005年8月27日)より